

勝浦市立勝浦中学校

1 学校の紹介

(1) 学校の概要

本校は、房総半島の東側の太平洋側に位置する温暖な地域にある学校である。また、来年度で創立70周年を迎える。校舎の一部から太平洋が見え、夏の暑い季節には海からの涼しい風が一日中吹き、冬には黒潮の影響で比較的温暖に保たれ、生活環境はとても良い。学級数は8学級（特別支援学級2学級含む）で、全生徒数は206名である。

本地域は伝統ある秋の「大漁祭り」が、例年盛大に行われ、地域の繋がりが深い。また3世帯同居や祖父母が近隣に住んでいる生徒が多く、家庭内の人間関係が良好な生徒が多い。また、学校行事や授業参観を行う際もたくさんの保護者が参観しにくるなど、学校教育に協力的な方が多い。年々生徒数は減少傾向にあるため、今後市内の各中学校と合併する予定である。

(2) 学校教育目標

学習指導要領の「生きる力」を育む教育に基づき本校では以下のように実践している。

「目標に向かって努力し、変化に対応できる生徒の育成」

目指す生徒像

- ・自ら学び、考え、表現できる生徒（知）
- ・相手の立場を思いやることができる生徒（徳）
- ・心身の健康と自他の命を尊重できる生徒（体）
- ・郷土を愛する生徒

(3) 読書活動に関する目標

- ・主体的に読書に親しもうとする態度の育成。

2 自校の図書館の現状

(1) 整備状況

・蔵書数	4194冊
・学校図書館図書標準の定める冊数	8480冊
・達成率	49.4%

夏季休業中に図書委員による図書室の整理を行っている。学校図書館図書標準の定める冊数には及ばず、古い本が多い。生徒が図書室を嫌厭する一つの理由にもなっていたので、古い本を多数廃棄することにより、より利用しやすい環境づくりを進めている。

また、貸し出しや本の紹介についての掲示物も随時作成し、環境の充実に努めている。

(2) 利用状況

① 3年間の推移

・平成25年度	・	・	・	・	・	91冊	(230名)	一人あたり	0.40冊
・平成26年度	・	・	・	・	・	146冊	(221名)	一人あたり	0.66冊
・平成27年度	(1月迄)	・	・	・	・	343冊	(206名)	一人あたり	1.67冊

②平成27年度 月別利用状況

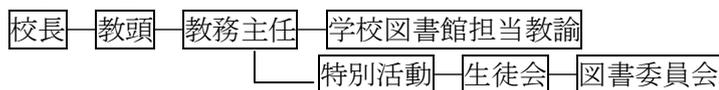
月	4	5	6	7	9	10	11	12	1
冊数	30	46	68	19	13	29	117	12	9

本校は、昨年度第1学年だけが朝読書を行い、今年度は全校で朝読書に取り組んでいる。読書の様子を見ていると、多くの生徒が熱心に読書している姿が見られる。その際の本は、図書室から借りても家から持参してもよいということになっている。本校の生徒の半分以上は、家から本を持参するか、もしくは友人同士で本の貸し借りを行っている。

その中で、①の3年間の利用状況の推移を見ると、1学年で朝の読書を開始した平成26年度から徐々に増え始めている。さらに今年度は図書委員会の活動を充実させ、様々な取り組みを行った。②の平成27年度月別利用状況を見ると、テーマ読書や移動図書室を行った11月は利用が急激に増えた。積極的に本の紹介を行ったことで、利用者が増えたものとする。

3 図書主任の取組

(1) 校内組織と主な役割



学校図書館担当教諭が中心となり、図書室の整備等、図書館の仕事を統括する。

(2) 子どもや教員に対する支援

① 図書館の運営に関すること

・図書室の整理（古本の扱い）

[ねらい]

生徒が利用しやすい環境をつくる。

[詳細]

夏季休業中に図書委員による図書室の整理を行った。その際、整理整頓にとどまらず古い本などの廃棄や補修を行った。十進法の分類も整理整頓し、生徒がより活用しやすい環境になるように努めた。また、徹底的な整理整頓を行うことで、図書委員の中に活動への達成感とともに、図書室に対する愛着の気持ちが養われ、今後の活動への一助となった。



【明るくなった図書室】

・図書室の使用についての掲示物

[ねらい]

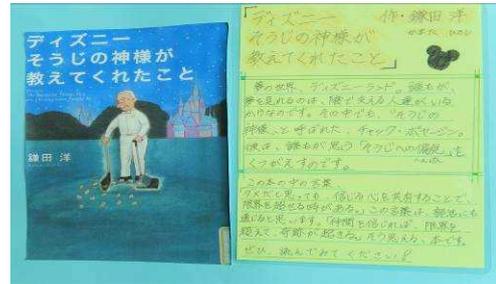
生徒の本に対する興味・関心を広げ、利用者を増やす。

[詳細]

年度初めに図書室の使用方法についての掲示物を作成した。図書室だけでなく各教室にも掲示し、使い方の徹底を図った。また、各季節にあった掲示物の作成や、テーマ読書にちなんだ掲示、生徒の作品などの掲示も行い、興味・関心が広がるような環境づくりを心がけている。



【生徒作品 本の帯】



【生徒作品 紹介カード】

・学級図書

[ねらい]

より手軽に本に触れる環境をつくる。

[詳細]

毎月図書委員が図書室から本を10冊前後選書し学級に設置する。学級の生徒の意見も反映させたため、学級図書の利用者は多い。また、学級図書を起点として生徒間で本を紹介しあう姿が見られるなど、本への興味を広げる機会となった。

・生徒の意見を参考にした選書

[ねらい]

選書に多くの生徒の意見を生かし、図書室の利用者を増やす。

[詳細]

毎年4月に図書委員による新刊の選書を行っている。この取り組みにより、多くの生徒の意見が反映されるだけでなく、今後自分たちで図書室の運営をしていくという自覚を高めることができた。

・新刊お披露目会

[ねらい]

生徒の本に対する興味を広げる。

[詳細]

5月に新刊お披露目会を行っている。図書委員がPOP掲示を作り、本を手に取りやすい環境づくりをしている。今年も多くの生徒がこの会に参加し、新刊への興味を高めるこ

とができた。

また、図書委員にとっても自分が選書した本や自分の作った POP を見て友だちが本を手にとってくれたりするのを目の当たりにすることで、図書委員としての自覚や充実感も育むことができた。



【新しい本を手に取り、読みふける生徒】



【新しい本に出会う】

②読書推進活動に関すること

・テーマ読書

[ねらい]

共通のテーマで読書することにより、友だちの読んでいる本に興味を持つなど、新たな本へ出会う機会とする。

[詳細]

全校で1ヶ月間共通のテーマに基づく本を読むという取り組みである。テーマ例としては、「スポーツ」「ファンタジー」などである。この期間は自分の知らない新しい本に出会わせ本の世界を広げたいと思い、昼休みに図書委員による「移動図書室」を他学年の教室で行った。1年生などは憧れの先輩がすすめる本に興味深そうに手にとっている姿が多く見受けられた。



【「ファンタジー」に関する代表作品の紹介】



【今月のテーマの掲示】

・私の本箱

[ねらい]

生徒が本に出会う機会を増やす。

[詳細]

生徒がグループを作り、教室に置いた段ボール製の自作の本箱にお気に入りの本を選

んで入れ、仲間に紹介する活動である。この本箱には、自分が選んだ本に興味を持ってもらう工夫としてPOPを付ける。本箱には、図書室の本のみならず家庭にある本を選んで入れることで、様々な本と広く出会う機会を増やすことができた。また、教室内に本箱を置くことで、日常生活において常に本が身近にある環境を作ることができた。



【家から好きな本を持ってきて入れる】



【おすすめのPOPを付け、アピールする】

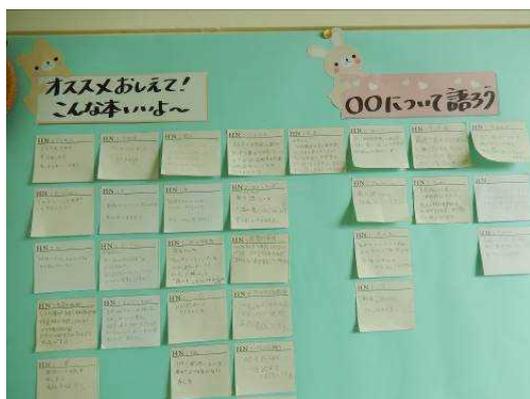
・読書タイムライン

[ねらい]

読書を通じた交流を通して、本との出会いを増やす。

[詳細]

朝読書の時間に読んでいる本の魅力や感想を他の生徒に発信する活動である。発信の際は、ハンドルネームを用い、専用の用紙に書いて投書箱に入れる。用紙は名刺サイズ程度で字数は20～40字程度とする。投書は図書室前に掲示。生徒たちは投書を読み、気に入ったものなどに返事を書く。投書のやり取りを通して本当の出会いを増やし、新しいコミュニティを形成することができる。



【本に関するコメントを投稿する】



【読んでくれた人が返事を返してくれる】

・ミニミニ読書感想文コンテスト

[ねらい]

新しい本に対する興味を育むとともに、友だちの本の読み方を学ぶ。

[詳細]

読書の秋にちなんでそれまで朝の読書の時間などに読んできた本の中で、ぜひ友だちに紹介したいと思う本について200字程度の読書感想文を書く。それをもとにコンテストを行い各学年での優秀作品と生徒を発表・表彰する。



【200字でコンパクトにまとめる】



【各学年の廊下に掲示し、コンテストをする】

(3) 学習等に関する支援

ア 教科指導に関すること

○単元に関連した図書資料の準備・提供等

各教科担当から希望があった場合は、図書を利用して授業を行っている。

また、図書の購入の際には幅広い意見を求めるために各先生方にアンケート調査を行う。

○国語科の授業で、本を主体的に楽しもうとする気持ちの育成をねらいとした授業を実践した。

【授業実践】

①単元名 広がる読書の世界 —「図書紹介冊子を作ろう」—

②指導目標

- ・読み手が興味をもつように、工夫して図書紹介文を書こうとしている。

【関心・意欲・態度】

- ・自分の本に対する思いを、構成を工夫しながら適切な言葉で書くことができる。

【書くこと】

③指導計画（8時間扱い）

時	主な学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
0.5	・学習の見通しを立て、紹介文の見本を通して工夫の視点をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れを提示する。 ・教師のモデルを提示し、図書紹介文の書き方、読み手を引き付ける工夫を確認する。 ・各クラスに配布する旨を伝え、意欲を持たせる。 ◇複数の見本から、読み手を引き付ける工夫を見つけようとしている。（関心・意欲・態度）
1.5	・選んだ本を再読し、図書紹介文に必要な情報を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本の内容紹介、自分の本に対する思い、推薦理由を選んだ本を再読しながらプリントにまとめさせる。 ・どんな人に選んだ本を読んでもらいたいかを意識させる。 ◇自分の思いを伝えるためにふさわしい表現や言葉を本から見つけ、まとめることができる。（書くこと）
4	・図書紹介文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルの提示をし、読み手を意識した工夫を再度確認する。 ・巡回しながら個別に助言を与える。 ・図書紹介文に必要な2つの要素（内容紹介・推薦理由[本に対する愛着]）の構成を工夫しながら下書きを書くように指示する。 ・下書きをグループで読み合い、レイアウト・文章構成・言語表現の視点でアドバイスをし合うよう指示する。 ・多様な筆記具を準備する。 ・カラーケント紙、クラフト紙など様々な種類の清書用紙を準備する。 ◇自分の本に対する思いを文章で書くことができる。（書くこと） ◇自分の思いや本の魅力が引き出せるような言葉や表現を工夫することができる。（言語に関する知識・理解・技能）
2	・グループで話し合い、図書紹介文を冊子として編集する。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に入りやすくなるよう、教師が話し合いの見本を見せる。 ・グループで話し合い、「作成者がどんな思いで図書紹介文を書いたか」を中心に考えながら章ごとに分類するよう説明する。 ・巡回しながらグループごとに助言を与える。 ・事前に生徒の作品に目を通し、いくつかの章を用意する。 ・用意された章にあてはまらない図書紹介文は、グループで新たに章を作らせる。 ◇章ごとに図書紹介文を分類し、読む手が興味をもつような図書紹介冊子をつくらうとしている。（関心・意欲・態度）

④評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	言語に関する知識・理解・技能
・読み手が興味をもつように、工夫して図書紹介文を書こうとしている。	・自分の本に対する思いを、構成を工夫しながら適切な言葉で書くことができる。	・自分の思いや本の魅力が引き出せるような言葉や表現を工夫することができる。

イ 特別活動に関すること

図書委員による新刊の選書，図書室の環境整備，本紹介など。[(2) ②参照]

4 成果と課題等

(成果)

・図書室利用の増加が見られたことが今回の大きな成果である。本校の生徒は朝の読書活動などを通して本に親しもうとする生徒が増加してきている。しかし、家から本を持参する生徒が多く、図書室の利用は多くはなかった。しかし、「新刊お披露目会」などを通して、図書室に足を運んでみようという生徒が増加した。「こんな本があったから読んでみます。」「POP を読んでいたらおもしろそうだったから。」などと言っている生徒も多くいる。図書室に足を運ぶことで本との新たな出会いがあったように思う。

・「私の本箱」や「読書タイムライン」「テーマ読書」などを通して、様々な本に触れる生徒が増えてきた。友だちの本紹介の作品を読んだり、会話の中に出てきたりすることにより興味が広がってきたように感じる。友人間で貸し借りしている姿も多く見られ、本についての話題が会話の中に出てくるようになってきている。

・本校は学校図書館図書標準の定める冊数が8040冊のところ4194冊しかなく、達成率は49.4%である。このように標準を満たしていない環境の中で、生徒の図書環境を充実させるにはどのようにしたらよいかということで工夫を重ねた。その中でも「私の本箱」で本が身近にある環境を作ることにより、休み時間等気軽に本を手にとる生徒が見られたのは成果である。

(課題)

・本校は学校司書や図書館司書の配置がなく、国語の教員が図書館担当を受け持っている。様々な校務分掌の中での図書館経営となるため、時間的な余裕がないことが大きな課題である。

・読書の充実を図るには全校体制の取り組みが不可欠である。各教科・授業の中で本紹介をしたり、生徒とともに読書をしたり、休み時間の会話に本の話題がふと出たりすることにより読書環境が充実していくのだと考える。

第2学年1組 国語科 学習指導案

指導者 T1 梶 祐梨子
T2 堀込さゆり

1 単元名 広がる読書の世界 ―読書紹介冊子を作ろう―

2 単元設定の理由

(1) 単元について

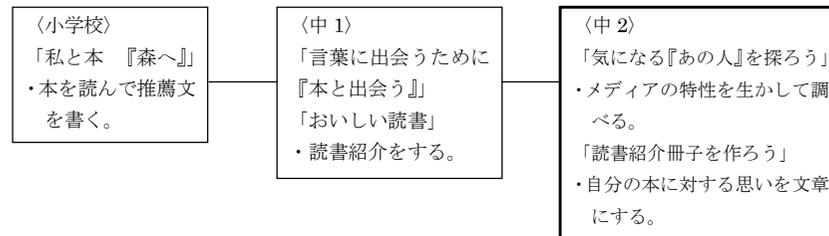
中学校学習指導要領国語第2学年の「B書くこと」の指導事項には「イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること」、「ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと」、「エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること」とある。本単元はこれらを受けたものである。

本単元は、自分の気に入った本について、自分の本に対する思いや本の魅力を踏まえ、紹介文を書き、冊子として編集するというものである。読書県「ちば」の推進において、読書活動を推進し、生徒が自主的に読書に親しむ環境を作り上げることが重要とされている。生徒の多くは読書の時間を設けると、自分なりのペースで読みすすめることができる。しかし、テレビドラマ、映画とメディア化された作品を手取る傾向が強く、自分の読書分野を広げようと活動するには至っていない。そこで、主体的に読書に親しむ姿勢と自らの学びの姿勢を向上させていくために、本の世界の広がりを知ることや、本を通して人とかわることで自らの思考を広げ、深めていく学習が必要であると考えた。

本単元のねらいは、自分の気に入った本について、書き手の思いや本の魅力が伝わるような紹介文を作成し、冊子としてまとめ、それを読み合うことで生徒の読書の世界を広げることである。読書のきっかけとなる「読書紹介冊子」を生徒たちが作成することで、自分が愛着も持つ本の中にある世界を伝え合う場となり、興味をひかれた本を生徒が手に取ること、読書への関心を高めることができるであろうと考える。また、書く能力の育成に向けて、選んだ本の魅力が引き出せるように、心にとまる文章や気に入った表現を使い、適切な言葉で生き生きと自分の思いを文章で表現する力を身につけさせたいと考える。

本校の研究目標は「自ら課題を見出し、思考し、表現できる生徒の育成 ～伝え合い、認め合う学習活動を通して～」である。授業では、自分の本に対する思いを適切な言葉で表現する学習を通して思考力・表現力を養いたい。また、紹介文作成にあたり、文章の推敲を通して自分の本に対する思いに向き合い、かつ、人を惹きつける情報とその提供方法を探り、読み手を意識した表現の充実にもつなげていきたい。

(2) 系統について



(3) 生徒の実態 (男子17名 女子名19 計36名)

落ち着いた授業に取り組むことができる。やや受動的な面も見られ、進んで全体の場で発表できる生徒には偏りが見られる。ペアやグループでの話し合い活動や発表では、友達への考えに耳を傾け、互いの良さを発見し認め合おうとする生徒が多い。これまでに、「明日」の授業で書く活動として詩の創作を行った際は、どの生徒も自分なりに言葉を考えながら詩の創作をすることができた。また、自分流「枕草子」を作る授業では、自分なりの四季に対する良さを、試行錯誤しながら書くことができた。個人差はあれど、多くは意欲的に書く活動に取り組むことができたと考えられる。

〈実態調査〉36名

〈読書に係わる実態調査〉

- ①読書は好きですか。
 - ・好き…19人 ・普通…13人 ・嫌い…4人
- ②一月に何冊本を読んでいますか。
 - ・4冊…2人 ・3冊…1人 ・2冊…15人 ・1冊…12人 ・0冊…6人
- ③一週間にどのくらい本を読みますか。
 - ・ほぼ毎日…10人 ・3～4日…14人 ・1～2日…6人 ・0日…6人
- ④好きな本のジャンルはなんですか (複数回答可)
 - ・ファンタジー…20人 ・SF、ホラー…12人 ・映画原作、ノベライズ…21人
 - ・歴史、時代小説…10人 ・ノンフィクション…6人 ・推理小説…15人 ・恋愛小説…10人
 - ・児童文学…8人 ・図鑑…5人 ・写真集…4人 ・専門書…8人

〈書くことに係わる実態調査〉

- ①自分の考えや思いを書くことで表現するのは好きですか。
 - ・好き…8人 ・どちらかという好き…22人
 - ・どちらかという嫌い…6人 ・嫌い…0人
- ②文集などの作品を作ることは好きですか。
 - ・好き…9人 ・どちらかという好き…18人
 - ・どちらかという嫌い…7人 ・嫌い…2人

時配	主な学習活動 (小単元)	評価の観点と規準(方法)				
		関心・意欲・ 態度	話す・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
1	・学習の見通しを立て、紹介文の見本を通して工夫の視点をつかむ。	・複数の見本から、読み手をひきつける工夫を見つけようとしている。 (観察・発表)				・文字の配置、大きさ、レトリックの工夫から受ける印象が変わることに気づいている。 (観察・発表)
1	・選んだ本を再読し、紹介文に必要な情報を整理する。	・選んだ本から紹介に必要な情報を選んでいる。(観察)			・自分の思いを伝えるにふさわしい表現や言葉を本から見つけ、まとめている。(ワークシート)	
本時 2 ／ 2	・読書紹介文の構成を考え、レイアウト案・下書きを作成する。	・読み手を意識したレイアウトを考えている。 (観察)		・本に対する思いを、構成を工夫しながら適切な言葉で書くことができる(ワークシート、紹介文)		
2	・下書きをもとに、読書紹介文を作成する。	・下書きをもとに丁寧に紹介文を作成している。(観察)		・推敲をもとに、自分の本に対する思いを文章で表現することができる。(紹介文)	・自分の思いがより、表現できる言葉や文章を選択している。 (紹介文)	
2	・読書紹介文を冊子として編集し、学習の振り返りをする。	・グループで話し合い、それぞれの紹介文を分類している。 (観察)			・他の紹介文の意図を考えながら、それぞれの章に分類している。(観察)	

〈考察〉

読書に関する実態調査①から、読書嫌いの生徒が少ないことがわかる。1年次から朝読書を行っている成果だろうと考える。反面、生徒に聞くと家庭で読書をする生徒は少なく、朝読書の時間が読書生活の中心になっている。②、③より学級の半数が一月で一冊は本を読んでいることになるが、これも、朝読書あってこそその結果だと考えられる。④から、生徒の好むジャンルはファンタジーや映画・ドラマの原作となったノベライズが多い。しかし、個々の回答を見ると、それら以外のジャンルの本に触れている生徒も見られる。

書くことにかかわる調査からは、自分の思いを表現することには比較的抵抗が少ないと考えられる。授業中の様子でも、全体に向けた発表は躊躇するが、自分の考えをノートやプリントには書くことができる生徒は多い。

以上の実態調査をもとに、授業では、書く活動において、自分の思いを表現する学習を設定した。自分の気に入った本に対する自分の思い・良さを、無数にある言葉の中から適切な表現を見つけて、文章にする活動を通して、自分の思いを適切な言葉で表現する力を身につけさせたい。また、文章の精度を高めるには、推敲が必要不可欠である。ここでは、自分で文章の推敲をする前に、グループで紹介文のアドバイスをし合い、それをもとに文章の推敲を行うことでより良い表現ができるようにしたい。紹介文の作成にあたっては、文面の工夫のみならず、文字の配置、彩色、レイアウトについても工夫を凝らすようにし、紹介文を手にとった生徒が本に興味をもつきっかけになるような作品が出来上がるようにしたい。

3 指導目標

(1) 読み手が興味をもつように、工夫して紹介文を書こうとしている。

【関心・意欲・態度】

(2) 自分の本に対する思いを、構成を工夫しながら適切な言葉で書くことができる。

【書くこと】

(3) 自分の思いや本の魅力が引き出せるような言葉や表現を工夫している。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 指導計画(8時間扱い)

5 本時の指導(4/8)

(1) 目標

・自分の薦めたい本に対する思いを、構成を工夫しながら適切な言葉で書くことができる。

【書くこと】

(2) 研究主題との関連(教科の研究主題との関連)

・本年度は「自分の思いを伸び伸びと表現する力を育て、伝え合う力を育む」を研究

主題とし、書く活動の充実に力を入れていく。紹介文作成においては、見本の提示や手順を明確に示すことで、生徒は学習に対する見通しを持つことができ授業に入りやすくなるだろう。また、グループ間での改善点の伝え合いをもとに推敲を行うことで、自分の思いや本の良さを適切な言葉で表現できるようにしていきたい。自分の思いを適切に表現できる力がつけば、今後の伝え合い活動でもその力は生かされるであろうと考える。

(3) 展開

学習活動と内容	時配 形態	学習への指導と評価 ・指導 ※評価と方法 ○支援 ◎個への支援		資料 ・ 教具
		T 1	T 2	
1 本時の学習課題を確認する。	3分 一斉	・レイアウトをもとに紹介文を作成することを伝える。		
レイアウトをもとに、読書紹介文を書こう。				
2 読書紹介文を書くにあたってのポイントを確認する。 ・紹介文の文面・構成 ・レトリックの工夫 ・筆記具の工夫など。	5分 一斉	・見本の提示を行い、紹介文を書く際のポイントについて説明する。 ・前時のワークシートを参考に、紹介文の文面は、内容の紹介、本に対する自分の想い、推薦する理由の3要素を書くように伝える。 ・レトリック、筆記具の工夫についても触れる。	・複数の見本を黒板に提示する。 ・色鉛筆、サインペン等の筆記具の準備をする。	教師の 身本 ワーク シート 色鉛筆 サイン ペン等
3 レイアウトをもとに読書紹介文を書く。	20分 個	・レイアウトをもとに、字の大きさや配置に気をつけながら、書くように指示する。 ○文章が思い浮かばない生徒には、要素ごとに短い文・言葉で考えるよう助言する。 ○言葉が思い浮かばない生徒には、資料「感想の	・紹介文用紙を配る。 ◎T 1 と共に机間指導を行い、つまづきの見られる生徒に助言する。	ワーク シート 紹介文

4 出来上がったところまでをグループで読み合い、良さや改善点を伝えよう。 ①友達の紹介文の良さを口頭で伝える。 ↓ ②「～すると（すれば）、もっと良くなる」という形でアドバイスを伝える。	7分 グループ	<p>言葉語彙集」を参考にさせる。 ◎机間指導を行い、文章が書けない生徒には、例文や書き出しの言葉を与え、文章が書けるよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介文が書けたところまでをグループで読み合い、良さや改善点を伝えるよう指示する。 ・T 1, T 2 で見本を見せ、伝え合いのやり方のイメージがつかめるようにする。 ①初めに、友達の紹介文の良さをたくさん誉めるよう助言する。 ②次に「～できるともっと良くなる」という形で改善点を言わせる。 ・言葉の使い方、文章のまとまり、流れ、構成の工夫、文字の配置などの視点で読み、アドバイスができるよう指導する。 <p>○アドバイスがうまくできないグループには、教師が入り着目するところを示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・T 1 と見本の紹介文を使って、改善点の伝え方を生徒に示す。 	教師の 見本
5 友達から伝えてもらった良さ、アドバイスをもちに、自分の紹介文を推敲する。	10分 個	<ul style="list-style-type: none"> ・友達からのアドバイスを参考に、もう一度自分の文面を見つめなおし、文章の推敲をさせる。 ・文面だけでなく、レイアウトの推敲もするように伝える。 	○机間指導を通して、生徒の様子を観察し、誉め合いとアドバイスがうまくできないグループに助言する。	紹介文

6 本時の学習の振り返りをする	5分 個	<ul style="list-style-type: none"> ・評価シートに今日の学習の自己評価を記入するよう指示する。 ＊自分の本に対する思いを、構成を工夫しながら適切な言葉で書くことができたか。【紹介文・評価シート】 	評価シート
-----------------	---------	--	-------

6 本時の指導（8／8）

(1) 目標

・それぞれの紹介文を、書き手の意図を考えながら章ごとに分類することができる。

【書くこと】

(2) 研究主題との関連（教科の研究主題との関連）

・本年度は「自分の思いを伸び伸びと表現する力を育て、伝え合う力を育む」が国語科の研究主題である。本時では、作成した紹介文を、話し合いを通して章ごとに分類し、冊子として編集する。編集にあたって、自分の考えを、根拠をもとに話し合うことで、伝え合う力がつくと考えられる。

(3) 展開

学習活動と内容	時配 形態	学習への指導と評価		資料・ 教具
		・指導 ○支援	※評価と方法 ◎個への支援	
		T 1	T 2	
1 本時の学習課題を確認する。	3分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・各自作成した紹介文を、話し合いを通して、冊子にすることを伝える。 		教師の 紹介文 見本
<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">紹介文を、書き手の意図をもとに章に分類し、冊子にまとめよう。</p>				
2 冊子作りに向けたポイントを確認する。 ・紹介文の内容をもとに、章ごとに分類する。 ・各章の紹介文のページ順も工夫する。	7分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に入りやすくなるよう、教師の見本を元にプレ話し合いを行い、モデルを示す。 ・グループで話し合い、「作成者がどんな思いで紹介文を書いたか」を中心に考えながら章ごとに分類するよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・T 1とプレ話し合いを行い、生徒に見本を見せる。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・冊子としてまとめた後、あとがきを書く。 	30分 グループ	<p>説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来上がった冊子は、他の学級にも配布することを伝え、意欲を高める。 ・まとめ終わったら、あとがきを書くように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループにコピーした紹介文を配る。 	紹介文の コピー 紹介文の コピー クリア ファイル	
<p>3 グループで話し合いながら、冊子をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心が温かくなる本」 ・「ほっと落ち着く本」 ・「わくわくする本」 <p>などの章に分類する。</p> <p>①話し合いに入る前に、各自、紹介文に目を通し、書き手の意図が現れている文章・表現をおさえる。</p> <p>②それぞれの紹介文が、どのような意図で書かれているか、おさえた文章・表現をもとに話し合い、章に分類する。</p> <p>③分類ができれば、クリアファイルに綴じ込み、あとがきを書く。</p>		<p>◎話し合いに参加できない生徒には、一緒について発言できる内容を探し、発言できる状況を作る。</p> <p>○分類が進まないグループには、紹介文の推薦理由が書かれている文を探し、参考にするよう助言する。</p>			
<p>4 学習の振り返りをする。</p>	10分 個	<p>○用意された章にあてはまらない紹介文は、グループで新たに章を作らせる。</p> <p>○あとがきに困っているグループには、冊子を作るにあたり、様々な紹介文に触れどう思ったか、冊子と手に取った人にどんなことを期待するかを書くよう助言する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループにコピーした紹介文を分類することができたか。【観察・読書紹介文冊子】 		評価 シート
		<ul style="list-style-type: none"> ・評価シートに今日の学習の自己評価を記入するよう指示する。 			

指導者 T1 上田 敦子
T2 梶 祐梨子

1 単元名 魅力を伝える「おいしい読書」

2 単元設定の理由

(1) 単元について

中学校学習指導要領国語第1学年の「B 書くこと」の指導事項には「ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。」とある。本単元は、これを受けたものである。

本学級は、「野原はうたう」の詩の朗読をしたときに、間を意識したり、声の強弱を変えたりするだけでなく、感情を込めて表情を変えながら音読する生徒、身振り手振りを付けて表現する生徒など、表現することを楽しんで取り組んでいる姿が印象的であった。また、以前の授業の中で、伝えたいことを決め、表現技法の一つ入れるという条件のもと詩の創作を行うことができた。言葉を表現するのに対して積極的な生徒が多いと感じられる。その際に、多くの生徒が感じたことを適切な言葉を選び、生き生きと自由に書くことができていた。今回は、自分で選んだ対象物を詳しく捉え、相手を意識してより伝わる表現を根拠を持って考えながら書くことを目指したい。そこで今回は、言葉による表現活動に重点を置き、さらに表現に対する意識付けを行っていきたい。

本単元は、自分のイメージしていることを最適な言葉を探して表現しようとするものである。自分の好きな本について、コピーなどを駆使して紹介することを最終目的としている。ただし、生徒の多くはコピーを作成した経験がない。コピーがどのようなものか知らない生徒も多いということがアンケートからもわかった。そこで今回はプレ活動として、「ドラえもん」のアイテムについてのコピーを作るという活動を行う。「ドラえもん」は休み時間の生徒の会話にも出てくるほど、生徒にとって身近なテレビ番組である。それだけでなく、ほとんどの生徒が知っているという授業を行う上での強みもある。コピーを作る上で大切なことは、コピーの対象に対する愛着である。そのものが「好き」という気持ちから、そのものの良さや魅力が見えてくるものと考えられる。多くの生徒が親しみを持っている「ドラえもん」を題材に使用することで、生徒の興味を高めることができると考えた。

学習活動については、今回は2つの活動を設けた。本単元の最終的な目的は、自分の好きな本の紹介をするということである。その前にプレ学習として「ドラえもん」のアイテムのコピーを書く活動を通して、コピーについて体験的に学ばせたい。

①コピーを書く活動について

既存の商品のコピーを参照しながら、コピーとは何かを学ばせる。その上で事前に行ったアンケートで書かれている「ドラえもん」の中の好きなアイテムのストーリーを読み、①アイテムについて②アイテムのメリット③デメリットを書き出す。それを元にコピーを書く練習をする。コピーは表現の幅を広げるためにサブコピーまで書く

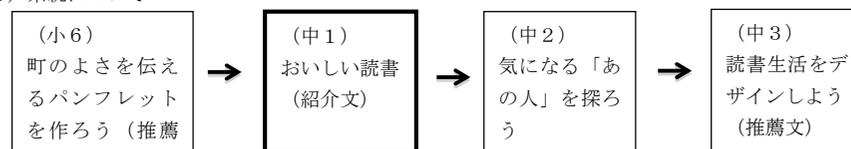
という条件を出す。そしてその中から良いと思われるコピーを選び、良いコピーの系統性を明らかにする。さらに、その系統性を元に新しいアイテムのコピーを作り定着させる。

②本の推薦文を書く活動について

夏季休業中に「人間てすごいな」と感じた本を用意する。その本の紹介カードの作成を2学期に行う。

そのために、①の授業で学んだことを元に本の魅力が伝わるようなコピー・サブコピーを考える。そして、その本の魅力とお薦めの文をそれぞれ5文程度にまとめる。その後、できたコピーと紹介文をレトリックを駆使しA5サイズの用紙に清書し、図書室に掲示する。

(2) 系統について



(3) 生徒の実態 (男子17名 女子13名 計30名)

活発な男子が多く、発表などを通して自己主張できる生徒が多い。女子は発表などの自己主張に対しては消極的であるが、ノートなどを見ると思考の深まりが感じられる生徒も見られる。全体的に熟考することや集中することを不得意とする生徒が多いので、落ち着いた環境で思考させる環境作りに工夫が必要である。そこで、個の活動を多く取り入れるようにした。

No	質問項目	結果
1	国語の授業の中で行われる①話すこと・聞くこと②書くこと③読むこと④言葉に関することの中で好きなことはどれですか。	①話すこと・聞くこと・・・6名 ②書くこと・・・・・・・・・・9名 ③読むこと・・・・・・・・・・9名 ④言葉に関すること・・・・3名 無回答・・・・・・・・・・3名
2	書くことで好きなことは何ですか。(複数回答可)	①物語・・・・・・・・・・5名 ②日記・・・・・・・・・・10名 ③説明・論説文・・・・・・1名 ④詩・・・・・・・・・・6名 ⑤短歌や俳句・・・・・・・・8名 ⑥新聞・・・・・・・・・・5名 ⑦その他・・・・・・・・・・1名 (漢字)
3	コピーとは何か知っていますか。	①知っている・・・・・・・・5名 ②知らない・・・・・・・・22名

		③無回答・・・・・・・・・・ 3名
4	知っている人へそれは、どのようなものですか。	○一目で内容が分かったり、読者を惹きつけたりするもの。(1名) ○スローガン(1名) ○真似するもの(1名)
5	「ドラえもん」のテレビや漫画は見たことがありますか。	①ある・・・・・・・・・・ 27名 ②ない・・・・・・・・・・ 1名 ③無回答・・・・・・・・・・ 2名
6	「ドラえもん」は好きですか。	①好き・・・・・・・・・・ 17名 ②ふつう・・・・・・・・・・ 10名 ③嫌い・・・・・・・・・・ 0名 ④無回答・・・・・・・・・・ 3名
7	「ドラえもん」の道具で好きなものを教えてください。(複数回答可)	①どこでもドア・・・・・・・・ 25名 ②もしもボックス・・・・・・ 17名 ②タケコプター・・・・・・ 17名 ④透明マント・・・・・・・・ 12名 ⑤暗記パン・・・・・・・・・・ 11名 ⑥タイムマシン・・・・・・ 10名 ⑥透明マント・・・・・・・・ 10名 ⑦通り抜けフープ・・・・・・ 6名 ⑧ビッグライト・・・・・・ 5名 ⑨きこりの泉・・・・・・・・ 3名

〈考察〉

質問項目1・2の調査より、書くことの中で「日記」「短歌や俳句」「詩」などに興味を持つ生徒が多いということがわかった。これらは基本的に短文で表現されることが多い。「日記」については、生活記録ノートを日々書いているという積み重ねもあるだろう。また、生徒の普段の会話から、ラインなどSNSを使つての短文や単語のやり取りは積極的に行っているということがわかる。これらから言葉を使つての表現は決して嫌いでないということが考えられる。

質問項目3・4より、「コピー」について知っている生徒がほとんどいないということがわかった。授業の中で様々なコピーに触れさせ、イメージを深めさせ、今回の活動を始めさせたい。

質問項目5・6・7より、「ドラえもん」についてほとんどの生徒がテレビや映画などを見たことがあり、嫌いな生徒がないということがわかった。これは生徒が意欲的に取り組める共通の学習材として適当と思われる。好きな道具についても多くの生徒が「どこでもドア」を挙げていて、それ以外の道具も一つに偏ったり、反対にバラバラになったりするのではなく、適度にまとまっている。一度各自の興味に合った道具のコピーを作った上で、よい表現の系統性を学び、続いて共通の道具を使つてコピーを考えることで深めさせるなどの工夫をしたい。

3 指導目標

- (1) 自分のイメージを言葉で表現しようとしている。【関心・意欲・態度】
- (2) 書いたコピーの説明を、根拠を明確に書くことができる。【書くこと】
- (3) イメージに合った言葉を選んで表現することができる。

【言語に関する知識・理解・技能】

4 指導計画(6時間扱い)

時配	主な学習活動(小単元)	評価の観点と評価規準(方法)			
		関心 意欲 態度	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと
1 6	・学習の見通しを立て、有名な広告からコピーについて学び、「ドラえもん」の道具のコピーを作成する。	・自分の好きな道具のコピーを作成しようとしている。(ワークシート・観察)		・道具の良い面・悪い面のメモをもとに、道具の魅力が伝わるようなコピーを考えている。(ワークシート・観察)	・自分の考える魅力が伝わるように言葉を工夫して表現している。(ワークシート・観察)
2 6 本時	・できたコピーを参考に、良いコピーの系統性を学び、それをもとに新しい「ドラえもん」の道具でコピーを作成する。	・系統性をもとに、新しい道具のコピーを考えることができる。(ワークシート・観察)		・系統性をもとに、道具の良さが伝わるコピーを考えることができる。(ワークシート・観察)	・自分の考える魅力が伝わるように言葉を工夫して表現している。(ワークシート・観察)
3 6	・作成したコピーをもとに、「コピー大賞」を考える。	・学んだ系統性を意識して、道具の魅力が伝わる作品を選ぼうとしている。(観察・発表)		・選んだ作品の魅力を持て説明できる。(ワークシート・観察)	
4	・好きな本のコピー、紹介文の	・学んだことをもとに、コ		・自分の考える魅力について	・自分の考える魅力について、

5 ／ 6	下書きを行う。	ピーや紹介文を書こうとしている。(ワークシート・観察)		て、工夫して表現できる。(ワークシート)		言葉を選んで表現できる。(ワークシート)
6 ／ 6	・下書きをもとに、紹介カードを作成する。	・レトリックなどを工夫し、魅力的な作品になるようにしている。(作品・観察)				・魅力的な作品になるように、丁寧に文字を書ける。(作品・観察)

5 本時の指導 (2/6)

(1) 目標

良い作品から学んだ系統性を活かし、新たな作品を根拠を明確に作るができる。【書くこと】

(2) 研究主題との関連

本年度は「自分の思いを伸び伸びと表現する力を育て、伝え合う力を育む」を国語科の研究主題とし、書く力の育成に力を入れている。本単元では、見通しを持って授業に臨めるような取り組みをいくつか行っている。学習の流れプリントを提示し学習の見通しを立てさせるとともに、プレ学習を行い学習を具体的にイメージできるようにしている。また、見本の提示をすることによりゴールイメージを明確に持たせられるようにした。さらに見本を複数用意し、それぞれの能力に合わせた活動を行えるようにした。これらの活動を通して自主的かつ意欲的に学習に取り組ませたい。

(3) 展開

学習活動と内容	時配 形態	学習への指導と評価 ・指導 ※評価と方法 ○支援 ◎個への支援		資料 ・ 教具
		T1	T2	
1 学習の流れプリントで1時間の授業の見通しを立てる。	2分 一斉	○1時間の授業の流れと、前時の授業との関連を確認させる。	◎机間指導をし、説明が理解できない生徒に助言する。	学習の流れプリント
2 コピーとは何かの確認をする。	2分 一斉	○前時に使用した有名なコピーをいくつか提示し、思い出しやすくする。	・複数の広告の提示をする。	前時に使用した広告など生徒作品

3	黒板に掲示された作品から、自分が良いと思った作品に名前を書いた付箋を貼る。	10分 一斉	○名前を公表せずに、作品だけ見て考えられるようにする。 ・生徒間を回り、決めかねている生徒に助言する。 ・根拠を明らかにして良さを説明できるように指示する。	・クラス全体を見渡し、付箋を貼り終わった生徒が静かに待てるようにする。	
4	良いと思った理由を発表し、作成者の意図を聞く。	5分 一斉	・作成者には工夫点を明らかにしながら、作成時の意図を聞くようにする。	・机間指導をし、援助を求めている生徒に助言をする。	
5	代表作品から良いコピーの系統性を学ぶ。	5分 一斉	・系統性を考えさせる。 ①インパクトの大きい言葉が使われている ②語呂合わせなど言葉の工夫がしてある ③英語を使っている		
良いコピーの特徴を参考に、工夫点を明らかにしたコピーを作ろう。					
6	「ドラえもん」の新しい道具のストーリーを読む。	5分 個	○コピーについての理解を深めるために、全員同じ道具のコピーを作成する。	◎机間指導をし、漢字の読み方など質問のある生徒に助言をする。 ○T1とともに机間指導し、つまずきのある生徒に助言と励ましを行う。	「ドラえもん」漫画
7	道具についてのメモを書き出す。 ①道具の特徴 ②道具の良い(魅力的な)部分 ③道具の悪い部分	5分 個	・具体的に書くように指示する。 ・必ず悪い面も書けるように指示する。 ○文で書けない生徒には、単語でも良いので書くように指示する。	○T1とともに机間指導し、つまずきのある生徒に助言と励ましを行う。	ワークシート
8	道具のコピー・サブコピーを考える。	13分 個	・コピー・サブコピーの工夫点を2文以上で書くように指示する。		ワークシート

<p>9 作品とワークシートを見ながら、本時の学習の振り返りをする。</p>	<p>3分 一斉</p>	<p>※作成したコピー・サブコピーの工夫点の説明を2文以上で書くことができるかワークシートで確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の時間に「コピー大賞 in 2組」を行うことを伝え、意欲の喚起を図る。 ・自分の考える道具に対する魅力をもとに、言葉を工夫することができたか確認する。 		
--	------------------	--	--	--